

宮城県 災害廃処理でプロポーザル開始
8月下旬までに結果公表

宮城県は7月25日、東日本大震災により発生した石巻ブロック（石巻市、東松島市、女川町）の災害廃棄物の処理やリサイクル業務に関する技術提案

（プロポーザル）の公募を開始した。8月上旬には現場説明会を開催、8月下旬までに審査結果を公表、処理業務の受託者を選定する。	石巻ブロックの災害廃棄物の量は846万3000トで県全体の47%、津波堆積物の量は380万立方メートルで県全体の33%と推計される。	基本方針として▽先行する一次処理などの実態を考慮する▽地元企業を活用する▽港湾施設などの既存施設を活用する▽2市1町と連携して処理する一などが示されている。
プロポーザルの災害廃棄物の量は846万3000トで県全体の47%、津波堆積物の量は380万立方メートルで県全体の33%と推計される。	基本方針として▽先行する一次処理などの実態を考慮する▽地元企業を活用する▽港湾施設などの既存施設を活用する▽2市1町と連携して処理する一などが示されている。	プロポーザル業務（石巻ブロック）プロポーザル審査委員会が審査する。審査内容や委員名は非公開。審査結果は8月下旬、同県ホームページに掲載するとともに参加者に通知する。